

2016 年度前期 学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—社会イノベーション研究科—

社会イノベーション研究科長 篠原 光伸

2016 年度前期の成城大学大学院では、32 科目で授業評価アンケートが実施され、延べ 105 人の大学院生から回答が得られた。大学院の授業評価結果の全体像については、「総合評価」が 5 点満点中 4.93 点（以下、全ての項目が 5 点満点中ということである。）、「この分野の関心と学力が得られた」が 4.87 点という高評価であり、しかも「総合評価」については 93.3% の受講生から、また「この分野の関心と学力が得られた」については 86.5% の受講生から最高点 5 点の評価を得ている。2015 年度前期、2015 年度後期も同様の結果であり、成城大学大学院での講義について、受講生は非常に高い評価をしているということが言える。専門性の高い大学院の講義は、受講生の学習意欲を高め、期待通りの高い教育効果を維持できていると考えられる。教員側の努力に関する項目については、「授業時間の有効利用」(4.94)、「学習環境の維持」(4.88)、「教員の熱意」(4.87)、「積極的な授業参加への促し」(4.86) 等と概ね高評価となっている。一方、学生側の努力に関する項目である「出席率」(4.73)、「取り組み意欲」(4.79)、「予習・復習」(4.33) については、同程度の高い評価とはなっていない。特に、「予習・復習」については評価項目の中でも最も平均値が低く、また分布のバラツキも大きいという結果であった。「予習・復習」をよく行っている受講生は半数程度 (54.1%) しかいなかった。このことが、「授業レベルの適切性」(4.50) に関する低評価にもつながってきていると思える。